

人権だより

No.324 (2025.5)

挑戦する勇氣

こうちょう なかむら そういち
校長 中村 惣一

おおたにせんしゅ にほんじんせんしゅ かつやく も あ
大谷選手をはじめとする日本人選手の活躍で盛り上
っているメジャーリーグでは、まいとしぜんきゅうだん せんしゅ かんたく
毎年全球団の選手、監督、コーチが
せばんごう「42」をつ しあい しゅつじょう ひ がつ にち
背番号「42」を付けて試合に出場する日があります。4月15日は
ジャッキー・ロビンソンが MLB 史上初めての黒人プレーヤーとして
デビューを果たした日、球界そして米国社会をも変えたロビンソ
ンの業績を称えるのです。



ジャッキー・ロビンソンが MLB 史上初の黒人プレーヤーとしてデビューを果たしたのは、
1947年4月15日です。この日、ブルックリン・ドジャースの一員としてエベッツ・フィールドの
ボストン・ブレーブス戦に一塁手として出場しました。ロビンソンのデビューは、長年続いてい
た MLB の「カラーライン」を打ち破る、つまり、白人選手のみで構成されていた MLB に黒人
選手が出場する道を開くという、歴史的な出来事であり、球界のみならず、人種差別が根強
く残っていた当時の米国社会に大きな衝撃を与えました。

しかし、デビュー当初から、観客、対戦相手、チームメイト、メディアなどから激しい人種差別
を受けましたが、それに屈することなく、グラウンド内外で毅然とした態度で闘い続けました。
厳しい状況下でも、持ち前の高い身体能力と知的なプレーでチームに貢献し、1947年には
初代新人王、1949年にはナショナルリーグ MVP、首位打者、盗塁王に輝くなど、すばらしい
成績を残しました。

ジャッキー・ロビンソンの勇氣ある行動と卓越した功績は、野球界における人種差別の壁
を打ち破っただけでなく、米国社会における人種平等の実現に向けた大きな一歩となりました。
彼の物語は、現在も多くの人々に勇氣と希望を与え続けています。

「不可能の反対は可能ではない。挑戦だ!」、これは、そのロビンソンの言葉です。

差別に立ち向かうことは、決して簡単な道ではありません。恐怖や不安を感じることは自然
なことです。しかし、一歩踏み出す勇氣を持つ、つまり、挑戦することで、人は困難を乗り越え、

未来を切り拓くことができるのです。そして、一人一人の小さな勇気が集まることで、社会全体をより良い方向へと変えていく力となるのです。皆さんの未来は無限の可能性に満ちています。恐れずに勇気を持って一歩を踏み出しましょう。

【人権委員の声】

集団の中で、相手が考えていることに合わせるのは良いけど、自分の考えもしっかり伝えることが大切だと感じました。(3年生 人権委員)

失敗したら嫌だなあ、はずかしいなあなど、やる前からネガティブに考えてしまいます。だから、いつも後悔することが多いです。これからは、たくさん挑戦して、たくさん失敗して、たくさん経験を積みたいです。(4年生 人権委員)

私は「不可能の反対は可能ではない。挑戦だ!」という言葉が特に印象に残りました。この力強い言葉は、ジャッキー・ロビンソンが単に逆境に耐え忍んだだけでなく、自らの行動によって、人種差別の壁を打ち破り、未来に希望を与えたことの証だと感じました。私たちも、それぞれの立場で困難に立ち向かう勇気を持ち、より良い未来のために行動していくことの大切さを改めて学び、考えさせられました。(6年生 人権委員)

ジャッキー・ロビンソン選手は、プレーヤーとして、黒人初でデビューすることで、たくさん注目も浴びて、応援の声以上に最初は差別的な声も多かったと思います。そんな中でも色々な成績を残していて、どんな状況でも立ち向かい、小さくてもいいから挑戦する1歩を踏み出すことは、すごくかっこいいと思いました。そして、ジャッキー・ロビンソン選手は野球がとっても好きだったと思うので、しんどい、辛い状況に置かれても、自分の進んだ道を貫いて、周りをびっくりさせる成績を出していることに勇気をもらいました。(6年生人権委員)

人権教育相談課より

職員室の入口にある掲示板に「人権教育課コーナー」があります。職員室を訪ねてきた皆さんが、先生を待ったりするちょっとした時間に読んでもらいたいなという思いから、主に新聞記事を掲示しています。いろいろな記事を読んで、いろいろな人の考えに触れることで、自分の考え方や価値観を見直し、人権感覚を磨くきっかけにしていきましょう。新聞記事の他にも、人権委員会の活動報告もしています。ぜひご覧ください。